

平成30年11月27日
農業技術環境課

試験研究施設等の整備状況について

1 整備施設等一覧

	施設名	整備年度
農業総合研究センター		
1	食品加工支援ラボ	29
2	水稻原々種等専用乾燥調製・貯蔵施設	29
3	スマート農業拠点棟	30
園芸試験場		
4	低コスト次世代ハウス	29
5	高度環境制御・品質評価・ICT 拠点棟	30
6	野菜・花きスマート農業ハウス施設	30
7	研修棟	30
8	隔離昆虫等飼育ハウス	30
9	研究棟	30～31
10	管理棟	30～31
11	附帯施設	31
水田農業試験場		
12	高温耐性検定施設	30
13	耐冷性検定施設	30

注. 9～11は国の地域再生計画に認定され、H31当初予算化検討するもの

2 各施設の整備内容

<H29 整備済施設>

(1) 食品加工支援ラボ（農業総合研究センター）

農業者や食品製造業者等の県産農産物を使用した新商品開発や既存商品の改良の取組を、加工品の試作指導や研修会の開催により支援する。

鉄骨平屋建て 435.11 m²

設備： 研修室、食品製造室（洗浄室、一次加工室、加工室、包装室等）、機械室等

施設の特徴： ・県産農産物を活用した試作品の製造や試験販売ができる

・食品加工に取組む人材や指導者を育成するための研修ができる

（食品加工技術研修、衛生管理研修、機器操作研修、新技術移転研修等）

試作可能な加工品の種類（主なもの）

レトルト食品、菓子、ジュース、そうざい、麺、乾燥食品、ソース類、アイスクリーム



(2) 水稲原々種等専用乾燥調製・貯蔵施設（農業総合研究センター）

生産者が使用する水稲一般種子の基となる原々種及び原種種子生産において、多種多様な品種（食用米、酒米、もち米等）の種子を効率よく乾燥・選別した後に、温度と湿度をコントロールすることにより、複数年保存を可能とする。

鉄骨平屋建て 260 m²

機能：水稲原種種子の乾燥・調製・精選

多種多様な品種に対応できる乾燥・調製・精選するプラント

水稲原々種、原種種子の冷蔵保管

年間通じて10℃、湿度35±10%を保持（冷蔵室の面積・保管量：56 m²、21t）



(3) 低コスト次世代ハウス（園芸試験場）

低コスト次世代型ハウスにおいて、環境制御技術を用いたトマトの長期・多収生産技術の栽培実証を行う。県内平坦部（寒河江市：園芸試験場）と山間部（大蔵村）での収量・品質や栽培性を比較検討し、今後の次世代ハウス導入の資とする。

軽量鉄骨ハウス 280 m²

設備：複合環境制御システム（気温、湿度、日射量、CO₂濃度等）、ペレット温風暖房器、ミスト装置、CO₂発生装置、養液装置等



<H30 整備中施設>

(1) スマート農業拠点棟（農業総合研究センター）

気象変動に対応した新しい水稲の栽培管理技術を開発するため、気象データやドローンによる観測データを収集・解析する観測室と農業者へ新技術を紹介する研修室を備えた施設を整備する。

鉄骨平屋建て 120 m²

(2) 高度環境制御・品質評価・ICT拠点棟（園芸試験場）

野菜・果樹・花きの長期貯蔵・輸送技術や、ハウス内作物が育つ最適な環境に自動で制御する技術を開発するため、ハウスのデータ観測・制御室や低温貯蔵庫等を備えた施設を整備

する。

鉄骨平屋建て 646 m²

(3) 野菜・花きスマート農業ハウス施設（園芸試験場）

画期的な野菜・花きの生産技術を開発するため、ハウス内の環境を制御できる次世代型のハウスを整備する。

10 棟(間口 7.2m×20m)

(4) 研修棟（園芸試験場）

農業者へ迅速な技術移転を図るため、大小複数の研修室と展示スペースを備えた施設を整備する。

鉄骨平屋建て 390 m²

(5) 隔離昆虫等飼育ハウス（園芸試験場）

温暖化により発生が予測される難防除害虫への防除技術を開発するため、害虫の生態等を調査する施設を整備する。

45 m²

(6) 高温耐性検定施設（水田農業試験場）

夏の高温を再現して高温に強い新品種候補を選抜するため、高温を再現できるハウスを整備する。

ハウス 1 棟 420 m²

(7) 耐冷性検定施設（水田農業試験場）

冷害年を再現して、冷害に強い新品種候補を選抜するため、水田に冷水を循環できる施設を整備する。

木造平屋建て 22 m²

<H30 設計、H31 工事予算化検討>

(1) 研究棟（園芸試験場）

バイオテクノロジーを活用した新品種開発や、試験栽培した農産物の生理状態の分析、土壌状態の分析等を行う施設。

鉄骨造 2 階建、2,000 m²

(2) 管理棟（園芸試験場）

事務室、会議室等の配置。

鉄骨造 2 階建、1,920 m²

(3) 附帯施設（園芸試験場）

温暖化に伴い北上する新規害虫の生理生態調査、輸出先の検疫に対応するための国内害虫の防除技術の研究施設、さくらんぼについて、根の伸長範囲と降雨条件をコントロールして、肥料と土壤水分が枝の伸長と翌年の結実へ与える影響を解明する施設、他。